

作新同窓会報

発行 作新学院同窓会 〒321-0027 宇都宮市埜田1-3-27 船田教育会館内 TEL028-621-9083 FAX621-3941



第76回選抜高等学校野球大会の甲子園球場アルプススタンドにて(平成16年3月23日)



同窓会の皆さんへ

ごあいさつ

会長 柿沼 宏
(高8回卒)

作新学院同窓会の皆様、お元気ですか。

私は同窓会会長の柿沼宏でございます。同窓の皆様には、日頃より何かとお力添えを頂き、また会の運営につきましても様々なご協力を頂きまして誠に有り難うございます。

今回、同窓会の会報誌17号発刊に際しまして、一言お礼とご挨拶を申し上げます。さて、私共の母校作新学院は今年、創立120周年を迎えることになりました。一口に120年と申しますが、それは主に長い長い年月でございます。

建学以来、一世紀を越える輝かしい学院の歴史と、その歴史に育まれて来ました素晴らしい学院の伝統、

そして更には豊かな教育環境に恵まれまして、我が母校作新学院は着実に成長を続けておりますが、私共同窓会も学院とともに発展成長を遂げて参りまして、今や会員数九万余人を数えるまでになったのでございます。

私共同窓生一同、母校作新学院の今後益々の充実と発展とを祈念いたします。同窓生の皆さん、私共にとりましては懐かしいあの「一校一家」の心暖まる言葉を胸の奥に収めて、同窓生としての絆を益々強めていって頂きたい、そして会員相互の連携を深め、交流の輪を広げ、お互いの協力と親睦を図って頂きたいと思っております。

今後の皆様方のご活躍とご健康をお祈り致します。



作新の風を吹かそう

作新学院 院長 船田 元

平成16年は本土に上陸した台風が10個近くに達するなど、台風の当たり年でした。新潟中越地震がそれに追い討ちをかけてしまいましたが、被災された皆様にあらためてお見舞いを申し上げます。それとは反対にもっと吹いてもらいたい大風(おおかぜ)があります。「作新の風」です。

かつてこれが吹いたのは硬式野球部が甲子園で春夏連覇を達成したり、「怪物」江川君が敵のバッターを文字通りバッタバタと切り捨てたときでした。その後も時々風は吹いていましたが、残念ながら長続きしなかったり微風にとどまったりしていました。

ところが最近では少しずつ作新の風が吹き続けるようになってきたようです。例えば16年度の全国高校演劇では、作新演劇部が悲願の最優秀賞を勝ち取ったほか、弓道部が国体で優勝したり、陸上競技部が関東高校駅伝で3位となって京都の全国大会に出場するなど、枚挙に暇がないほどになりました。大

学でもサッカー部が関東2部リーグに昇格しています。

平成17年度には作新学院は創立120周年の節目を迎えます。野球部の建て直しのための会合をOB会の皆さんとともに考えたり、同窓会の皆さんとともに「作新展(仮称)」を市内で開催して、作新学院の存在をあらためて世の中にアピールすることを考えています。

いま作新学院は他の私立学校と同様に、少子化の荒波をまともに受け、生徒減少に悩んでいます。しかし学習面や部活動などで「作新の風」が吹き荒れてくれば、それに歯止めを掛けることは十分に可能です。多くの生徒さんから「選ばれる作新」を目指してがんばってまいります。

同窓会皆様の作新に対しますさらなるご理解と、ご協力をいただきますよう、心からお願い申し上げます。

創立120年に向けて

作新学院 副院長 船田 恵



本学もいよいよ今年120周年を迎えることとなり、これもひとえに皆様方からの絶大なるご支援、ご協力があつたればこそと深く感謝申し上げます。次第です。

ただ、急速に進む少子高齢化に加え、依然として明るさの見えない地元の経済状況など、私学を取り巻く環境は厳しさを増すばかりで、私ども作新学院も日々変化する教育現場のニーズに、より迅速かつ機動的に対応できるよう、一日も早い思い切った組織改革・意識改革が求められています。また昨今は、子供たち、それも小学生に至るほど若い生徒児童までもが、凄惨な事件の被害者だけではなく加害者にもなりうるという社会情勢にあり、私ども学校関係者の果たすべき責任の重さをあらためて痛感いたしております。

そうした中、作新学院では昨年度から、ボランティアセンターの設置や不登校児のケアなど、地域や社会が抱える今日的な「心」の問題に特に力を入れた活動をいたしております。120周年の記念事業の中でも、環境や福祉といった社会問題に対して子供たち自身が積極的に取り組み、その改善のため具体的な行動を起こせるようなプログラムを用意しており、現在も鋭意準備を進めています。

平成17年度の創立記念日に向け、おそらくこれから様々な形でご支援のお願いをさせて頂くことと存じますが、作新学院の更なる発展とわが国の教育環境向上のため、皆様のご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。



新たな教育態勢

高等学校 副校長 上野 隆 宏

いよいよ県立高校の再編計画が実施されます。

基本的な考え方として、21世紀の新しい社会を築き支える自立した人づくり、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出す多様で柔軟な県立学校づくり、透明性が高く県民に信頼される学校運営のしくみづくりの3つをあげています。各学校は、学科の特長を生かして、それぞれが果たす役割や育成する生徒像を明らかにし、創意と工夫に富んだ教育活動により、特色化・個性化を推進するとのこと。このことは私立学校においても、まったく同じことが言えます。

平成17年度に開校する県立学悠館高等学校(フレックス・ハイスクール)は、生徒のライフスタイルに合わせて“午前・午後・夜間”の3つの時間帯から、自分に合った学習時間帯を選んで学ぶことができます。昼夜間開講の定時制課程及び通信制課程を置く単位制による県立高校です。さらに2年後に

は、県立の「中高一貫教育校」が設置されます。この他にも、新しいタイプの学校が色々具体化されることが決定しています。

県立高校も私学の良いところを真似たり、県立にしかできないような学校づくりをしています。作新学院は歴史と伝統をふまえ、建学の精神を基に教育態勢を整え、一步上を目指した学校づくりに努力しています。同窓生の皆様も学院の教育方針に、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

下野中学～作新学院へ“架け橋”

前同窓会 会長 和田 藤 吾
(高1回卒)



わが作新学院は今秋9月28日に創立120周年を迎えます。この長い伝統と歴史は本学院に学んだ同窓生の誇りであります。私は昭和18年に下野中学に入学、作新学院高等学校の第一期生として巣立ちました。当時の激動の6ヵ月間の学院生活をタイムスリップしてみよう。

県庁が栃木から宇都宮へ移転、東北本線が大宮～宇都宮間が開通した翌年の明治18年に船田兵吾が18歳の若さで下野英学校の校長に就任したのが開学です。校名の改称を重ねた下野中学は明治21年に校舎を二里山の丘上(現県立図書館)に新築しました。第一回卒業式は明治35年で20人の有能な人材を輩出した。作新館女学校は子女育成を教育理念に昭和16年に船田中理事長で開校しました。

下野中学は75年間の歴史を刻み、作新高女は僅か5年間で終止符を打ちました。下野中と作新高女が昭和20年に一の沢キャンパスに大合同し作新学院が

誕生しました。作新学院も創立120周年の半分、60年の足跡を残しました。昭和60年の100周年には4万人、ことしの創立120周年には作新学院同窓会員は10万人と“ギネス”ものに膨れ上がります。

私が出野中学に入学した昭和18年は軍事一色で戦闘帽、足にゲートルを巻き、地下足袋履き、防空頭巾を携帯しました。女子生徒はモンペ姿でした。1～3年生は通学したが、正規授業にはほど遠く、農繁期は春秋に集団長期宿泊して農作業に汗を流した。4・5年生(作女は3・4年生)は軍需工場に通年動員された。

下野中学、作新高女は昭和20年の空襲で校舎を焼失、同8月には一の沢キャンパスに大移動、生徒は机と椅子(一つにつながっていた)を抱え“アリの引越”よろしく長蛇の列は圧巻?だった。

私は戦後の学制改革で下野中学57期、作新学院第一期生と二枚の卒業証書を拝受した。正に下野中学～作新学院への“架け橋学年”でした。

第30回(平成16年)同窓会新年会・新成人祝賀会

総務企画部 部長 三村松司
(商3回卒)

作新学院高等学校同窓会主催の『第30回新年会・新成人祝賀会』が平成16年1月10日午前11時から、宇都宮市戸祭元町の「アピア」で同窓会員約500人が参加して盛大に行われました。開会の挨拶に続き、参加者全員で作新学院歌「光満ちたり」を斉唱した後、柿沼宏同窓会会長(高8回卒)が、「日本一のマンモス校のわが作新学院は来年創立120周年を迎えます。節目の年を迎えるにあたり、学院側と一緒に様々な記念イベント等を計画しますので皆様のご協力をお願いしたい」などと挨拶。さらに「新成人の皆様方、誠にありがとうございます。責任あるお立場になりましたが、それぞれの世界で頑張ってください。そして伝統ある作新学院の同窓会員として、船田元先生のもと、我々と

一緒になって作新学院、同窓会の発展にご協力を頂きたい」と激励しました。

この後懇親会が行われ、晴れ着姿の新成人と先生たちとの談笑風景の場に、元先生が加わっての記念撮影が至るところで見られた。一方で、久しぶりに再会した老若男女の同窓会員らが、コップ片手に級友たちと歓談するシーンもあちこちで見られるなど、参加者全員が楽しい一時を過ごした。

平成17年の新年会・新成人祝賀会は1月8日(土)正午から、アピアで開催します。同窓生多数の参加をお待ちしております。

平成16年度作新学院同窓会定時総会

総務企画部 部長 三村松司
(商3回卒)

日本一のマンモス同窓会、作新学院高等学校の平成16年度定時総会は、昨年6月11日午後6時半から戸祭元町の「アピア」で船田元院長、上野隆宏副校長、英進部、総合進学部、男子部、女子部、情報科学部の各部長らを来賓に迎え、同窓会員約200人が参加して開催しました。

坂本昭副会長(高8回卒)の開会挨拶の後、三橋英之先生の指揮で、作新学院歌「光満ちたり」を全員で斉唱。柿沼宏会長(高8回卒)が「作新学院高等学校は、来年9月に創立120周年を迎えます。この節目の時に、同窓会員が力を合わせ“作新学院ここにあり”を強力にアピールしましょう」などと挨拶しました。

続いて参院選挙応援で忙しい合間をぬって駆けつけた船田元院長が「同窓会員の皆様のご協力があればこそ、作新学院の発展が望まれます。今後とも柿沼会長のもと、

一致団結して学院を支えて頂きたい。来年9月には創立120周年を迎え、記念式典など様々な行事も予定されておりますので、同窓会のご協力も併せてお願い致します」などと挨拶がありました。

この後小川哲弥さん(高28回卒)と沼尾雅由さん(英7回卒)を議長団に選出し議事に入り、事務局及び総務企画部会、組織財政部会、広報部会、文化厚生部会から提出された15年度の決算・会計報告、16年度予算、事業計画などについて審議し、満場一致で了承されました。

総会終了後懇親会が和やかに行われ、各テーブルに用意されたお酒や料理を頂きながら、先生方や、久しぶりに出会った級友たちと歓談する弾んだ声が、飛び交っていた。

風見鶏

<http://www.toritei.com/>

今泉知明〔昭和49年卒〕

宇都宮市中央1-6-9 ☎028-633-4105

三正建設

代表取締役 船見 正〔昭和40年卒〕

船見 佳正〔平成4年卒〕

宇都宮市大曾5-3-6 ☎028-622-5830

サンライズキョウヤ(各種新中古車販売)

<http://www.skyoya.jp>

沼尾雅由〔平成4年卒〕

宇都宮市屋板町564-1 ☎028-657-0210

とらや(和洋菓子販売)

代表取締役 柿沼 宏〔昭和31年卒〕

宇都宮市西1-3-6 ☎028-636-5585

食と自然美に溢れた松島湾バスツアー

— お昼は すしバイキング —

文化厚生部 部長 **福原 洋**
(高15回卒)

バスツアーは昨年11月14日(日)開催致しました。やや、霧雨が多少ある早朝、バス2台、参加者77名は母校の正門を後にしました。

以前のバスツアーとは少し内容を変えて、今回は「見る、食べる、楽しむ」の3つを目的として企画致しました。おかげさまで、申し込みが早いうちに殺到し、一時はFAXがパンクする寸前になってしまう事もありました。

宇都宮ICより経由して仙台東ICから、伊達の牛タン本舗で小休憩、ここでしか味わう事が出来ない沢山種類がある「牛タン」を試食、買い物をして松島海岸ICへと向いました。松島にてお昼は参加者皆さまが待望の「すしのバイキング」最初は各々のお膳に大皿に乗った吟味された「にぎり」が6ヶ乗っており、味噌汁と具に魚が入った美味しい味噌汁でした。地元でしか味わう事ができないお寿司で、もちろんお寿司は好きなものを、好きなだけ食べる事が出来、参加者全員は満喫したことと思います。

昼食後は素晴らしい“自然に溢れた松島湾”を背景

にして、若い気持ちになった中年、若人の男女がこの顔が一番というお顔で合同の記念写真を撮影しました。松島栈橋より船に乗って湾を遊覧しながら寒風澤島で一旦下船して、「とれたてのかき」を若い女性達が大きな鉄板で焼いてくれて「焼きがき」にパクつき、味付はなくとも海水の味がそのままでも何とも言えない美味しさであった。参加者にはあたかも、帰ってきて販売するかのよう10パックを買った方もおりました。

塩釜栈橋で下船し、次は蒲鉾工場へとショッピングをして利府中ICより帰路宇都宮へと向って来ました。車中では「遊びゲーム」や「5つの問題」があり全問正解者には新潟の特製「こしひかり」そしてペアのステーキ食事券がついておりました。

帰路にはあたかもプロ顔負けといってもよいくらい「カラオケ」が沢山入り、お互いに美声の方々が多く、マイクの休む事がなかった様でした。

さて、次回の企画は何にしようか？次回も皆さま多数のご参加をお待ち致しております。



文化厚生部
バスツアー

イナミ工業
 取締役名誉会長 **稲見 邦 男**〔昭和18年卒〕
 代表取締役社長 **稲見 眞佐起**
 宇都宮市花房1-9-11 ☎028-634-5265

荒川歯科クリニック
 理事長 **荒川 敏 明**〔昭和48年卒〕
 宇都宮市西川田本町4-1-3 ☎028-645-5072

昭和車輛 (重機の修理・販売)
 代表取締役 **坂本 功 樹**〔昭和50年卒〕
 宇都宮市上大曾町348 ☎028-624-8553

三 信 電 工
<http://www.sanshin.ne.jp>
 常務取締役 **福原 洋**〔昭和38年卒〕
 宇都宮市川俣町1056 ☎028-621-0123

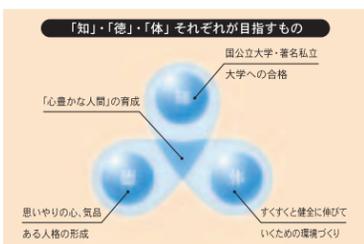
高校進学を迎える中等部からみる『小・中・高一貫教育』の近況

「知育」・「徳育」・「体育」という3つのバランスで「心豊かな人間」の育成。

中等部は、今年、創立58周年を迎え、6,167名の優秀な卒業生を輩出してきました。一校一家の名の下、小学部からも多くの児童をお預かりし、高等学校へと送り出しています。

1クラスは30人程度。少数精鋭のクラス編成を実践し、きめ細かな指導を行い学力の向上に努めています。英語・数学の授業においては、チームティーチングや個別指導を取り入れ、生徒の基礎力の強化を図るとともに、自主的な学習を進められるよう援助をしています。さらに高等学校（英進部）までの6年間、中・高一貫

教育を原則とした独自のカリキュラムによる英才教育を目指してきました。特に英・国・数の三教科においては先取り教育を行い、中学三年次の二学期までに中学校の全課程を修了させることを可能にしています。従って、高校進学はもとより（高校卒業時の）国公立大学・著名私立大学への進学においても、輝かしい実績をあげています。



同時に、複数学級担任制をとり、一人一人の個性を伸張する教育環境を作ってきました。毎日の日記指導を通して生徒との心の交流を図り、家庭的な雰囲気を作ることにより、生徒はのびのび学校生活を送っています。授業はもとより、道徳・特別教育活動等の時間では、心の教育に力を注いでいます。月1回の聖話の時間では、牧師さんの講話を通し、キリスト教の「愛の精神」を理解させ、気品ある人格の形成に努めています。

一方、多くの体験学習を通して心豊かな生徒の育成を目指しています。年間を通して多くの行事が組まれており、それらを体験しながら、協力・責任感・思いやり、そして自ら考え行動することの重要性を学んでいき

原点 the origin ここには、私立学校建学の理想が脈々と息づいています。

● 建学の精神 ●

作新学院の「作新」は、旧黒羽藩の藩校「作新館」の名称がなくなるのを惜しんで、学院の創立者船田兵吾らによって名づけられたものです。その精神「作新民」は、「民を奮い立たせ、日々気構えを一新し、遷り変わる時代の要請に応えられる人材を育成すること」を説いたもので、作新学院は、この思想を建学の精神として今に受け継いでいます。

● 学院の校風 ●

作新学院の校風は「一校一家」に代表されます。それは、卒業生と在校生、そしてそれぞれの保護者・教職員はもちろん、この学院に集まる人々のすべてが一大家族となり、ともに喜び、悲しみをも共有することで、すべての人々の幸福と繁栄への願いを実現しようとするものです。

ます。教科書の知識を生きたものとし、生きる力、考える力を備えた人間形成を目指して〈知育・徳育・体育〉の各分野についてきめ細かな教育を行っています。生徒たち自身も各行事に積極的に取り組み、楽しみながら学び合い、社会生活を営む上で大切なものをたくさ



下野中学校 第1回卒業生

んに付けていきます。特に、夏休み中に行われる「チャレンジ講座」では、30以上ある講座の中から、各自が興味・関心のあるものを選択し、実践します。積極的に体験することは、自己の特性が理解でき、その個性の伸張に自らが努め

ていくよききっかけ作りとなっているようです。また、部活動も盛んに行われています。中等部には8つの運動部、6つの文化部があります。授業時間を十分に確保した上で、時間を有効利用して熱心に活動しています。部活動以外でも、多くのコンクールや競技会に参加をし、今年度も各分野で優秀な成績を収めました。

中等部では、早くから冷暖房完備の恵まれた環境の下生活をしてきましたが、今年の夏には、さらに最先端の設備を持つ視聴覚室と各階のトイレが整備され、より一層充実した学習環境となりました。映像の美しさ・音響の良さ・雰囲気の良さから、視聴覚室は生徒の憩いの場となっています。トイレも、その柔らかな色合いを基調とした壁や床などデザインの良さ・最新の機能を備えた機器などが、生徒には大好評です。

生徒は、こうしたきれいで落ち着いた雰囲気の中、心にゆとりを持ち、楽しく充実した生活を送っており、卒業後も中等部に愛着を感じ、度々顔を見せてくれています。

今後も、小学部・高等学校との連携を図り、作新学院の発展に寄与していくことを心に誓い、教職員一同日々精進していきたいと思います。

泉 商販 (全国有名味噌特約店)
代表取締役 大木利夫〔昭和35年卒〕
宇都宮市中央3-8-10 ☎028-634-7936

安藤設計 (一級建築士事務所)
<http://www.3.ocn.ne.jp/~andoarc/>
代表取締役 安藤英夫〔昭和43年卒〕
専務取締役 安藤寛樹〔昭和45年卒〕
宇都宮市山本1-3-14 ☎028-625-2875

金 田 商 会
代表取締役 金田真麒〔昭和35年卒〕
宇都宮市松原1-5-5 ☎028-622-1846

栃木県・熟田郵便局
局長 塚原征文〔昭和38年卒〕
高根沢町伏久119 ☎028-676-1000

大貫商店 (紙一式)
早乙女ヒロ子〔昭和21年卒〕
宇都宮市二荒町9-3 ☎028-634-4131

作新学院 親交会
会長 堀井毅
宇都宮市一の沢1-1-41 ☎028-648-1811

東野観光 (旅のことなら)
常務取締役 斎藤操〔昭和37年卒〕
宇都宮市平出工業団地19-8 ☎028-660-2441

田中正平司法書士事務所
司法書士 田中正平〔昭和27年卒〕
宇都宮市材木町2-3 ☎028-638-5020

作新学院創立120周年によせて



作新学院 名誉会長
推津 弘之
(下41回卒)

私達の母校である作新学院が創立120周年を迎えることになりました。心から多くの同窓生や関係者の皆様と共にお祝いを申し上げます。そして改めて創立者の船田兵吾先生と歴代の院長、理事長、諸先生、諸先輩方々のご努力等に対し深い感謝と敬意を表します。私は昭和17年(財)下野中学校を卒業しましたが在学中に(財)作新館高等女学校が創立され、その後女子短期大学の開学、創立100周年には記念事業として作新学院大学も開学され幼稚園から大学院までの学校法人船

田教育会として大きく飛躍してきました。教育方針「一校一家」「自学自習」「誠実勤労」の理念も今日まで引き継がれておりますことは心強いกำลังใจです。私は約10年間同窓会長を務めさせていただきましたが創立110周年には記念事業として約1,260頁余の同窓会名簿が発刊され関係者皆様のご苦勞等に感謝をしているところです。会長も和田前会長から柿沼現会長に引き継がれましたが学院経営等をめぐる環境は大変厳しくなりました。幸い有能な両会長をはじめ役員、会員共に学院や同窓会の発展に懸命のご努力をされておりますことは誠に感謝にたえないところです。どうぞ創立120周年を迎えるにあたり、ますます会員相互の団結と友情を高め母校である作新学院の更なる発展を祈念いたします。改めて学院や同窓会関係皆様の、これまでのご苦勞等に心から感謝と御礼を申し上げます。

!ビバ!第8回作新学院女子同窓会

早乙女 ヒロ子
(作女2回卒)

伝統と歴史を誇るわれらの作新学院はこの秋、創立120周年を迎えます。女子同窓生一同は心をひとつにして、この喜びにますますの前進を誓い合いました。

女子同窓会は、隔年ごとですが平成16年7月10日で8回を数えました。年ごとに出席者は増えていき、今年は160名、ホテル丸治の会場は座る席も窮屈なくらい満席で活気に溢れました。来賓の船田元先生をお迎えし、同窓会長柿沼宏様、同窓会副会長もご出席くださって賑やかな幕開けでした。物故された方に、又災害にあわれた方に、一分間の黙祷を捧げた後、女子同窓会長福田弘子さんの挨拶により和気藹藹と会が進行、大淵副会長の乾杯に続いて、アトラクションのフラダンスが披露され、司会者の福田勝江さんの巧みな話術で、ますます盛り上がりました。



曲の変るごとに目のさめるような衣裳で踊るフラダンスは、まさにプロ級でした。拍手も忘れる程に魅了されたのです。作新学院同窓生の女性群は凄いです、これらを地域社会に役立てられたらと、私はつくづく思いました。もうすでにあらゆる分野で、社会に貢献し、活躍しているのです。

創立120周年を期に、一致団結して大いにはばたこうではありませんか。

!ビバ! !ビバ! 女子同窓生諸姉よ。

作新学院高等部 P・T・A

会長 鈴木 義忠

宇都宮市一の沢1-1-41 ☎028-648-1811

川口写真館

代表取締役 川口 修一〔昭和44年卒〕

宇都宮市北一の沢21-19 ☎028-622-4641

伴印刷

<http://www.bannet.com/>

代表取締役 伴 清〔昭和35年卒〕

常務取締役 伴 誠〔昭和62年卒〕

宇都宮市栄町6-10 ☎028-622-8901

小山市市議会議員

大山典男〔昭和38年卒〕

小山市小宅449 ☎0285-37-0539

昨年度卒業生の進路状況

～ 東大理Ⅰに合格 ～

平成15年度、作新学院高等学校の卒業生は、1803人であった。その進路の内訳では、4年制大学へ530人、短期大学へ149人、予備校を含む専門学校へ619人が進学し、就職・自営・その他の進路を選択した生徒は405人であった。

まず本校の大学・短大の合格状況であるが、卒業生数が減少したにもかかわらず、4年制大学と短期大学の合格者数は前年度に比べ若干増加した。合格者数は、国立大学29人、防衛大学校1人、私立大学660人、短期大学45人である。本年度特筆すべきことは、5年ぶりに東京大学に合格者を出したことである。その他国立大学では、筑波大学、東京芸術大学、東京農工大学、東京学芸大学、東京都立大学、宇都宮大学などが主な合格大学である。私立大学では、慶応義塾大学へ2人、早稲田大学へ7人、明治大学へ8名など、例年通り多数の合格者を出すことが出来た。難化の一途をたどる医歯薬系大学には獨協医科大学への2人を含め合計14人が合格している。

全国的に見ると、今春4年制大学・短期大学に入学した者は69万7千人と70万人を下回り、この8年間で10万人近く減少した。2004年度のセンター試験は、国立大学の5教科7科目化、理科の試験時間割の変更、短大のセンター試験利用といった変更点があり、例年以上に話題の多い試験となった。志願者は587,350人で、過去最高となった昨年比15,537人少なく、ここ5年間でもっとも大きな減少である。しかも、センター試験の平均点が大幅にアップしたにもかかわらず、科目負担増の影響を受け、公立大学を中心に3年ぶりに志願者は減少し、受験倍率も国立大学で5.3倍（前年5.6倍）とやや低下した。しかし、2004年度もまた上位校は少数激戦となり難化した。難易二極分化にさらに拍車がかかったと言えよう。

専門学校の進学状況は、世相を反映して自動車整備、美容関係への進学の伸びが著しい。競争が厳しい医療関係は、看護系の高い人気が続き、進学者数も増加した。

また不況のための進路変更を余儀なくされた生徒も目立ち、県内専門学校への進学者が増加したのも特徴的なことである。

就職については、就職慣行の見直し、ハローワークの「高卒者求人情報Webページ」による情報配信など、高校生の求人にも変化が見られたが、そんな状況を反映し本校への募集企業は477社（昨年514社）となった。しかし、就職指導委員会の教員が、就職懇談会や各種研修会に積極的に参加して資料収集と状況分析を行い、求人開拓を実施するなど、きめ細かな指導計画と早期対策が功を奏し、特定の職種を除き希望者390名全員が就職を果たした。

作新学院は今年、創立120周年を迎える。今年度は、英進部・総合進学部・情報科学部の3部体制となり、長い伝統に改革を加えながら更なる飛躍を目指す節目の年となりそうである。今後も学習・生活・進路の各指導において一層の成果をあげるべく、教職員一同たゆみない工夫と努力を重ねていきたいと考えているところである。

平成15年度 卒業生進路先一覧

		卒業生数	4年制大学	進合格者数	短期大学	専門学校	就職	家事・その他
英進部	英進科	158	101	188	8	49(36)	0	0
	進学科	182	121	140	25	31(18)	2	3
	計	340	222	328	33	80(54)	2	3
男子部	普通科	629	204	220	13	216(38)	161	35
女子部	普通科	393	32	40	81	150(28)	92	38
情報科学部	流通経済科	158	21	21	9	55(1)	62	11
	情報科	95	23	23	2	40(2)	24	6
	電気科	44	8	8	0	12(0)	22	2
	電子科	21	2	2	0	13(0)	5	1
	美術デザイン科	49	16	16	2	27(0)	2	2
	生活科学科	74	2	2	9	26(0)	20	17
	計	441	72	72	22	173(3)	135	39
合計	1803	530	660	149	619(123)	390	115	

サンライズキョウヤ (鬼怒川京屋ホテル)
 沼尾 成七 [昭和37年卒]
 自宅：宇都宮市石那田町1817 ☎028-669-2127

小牧製作所 (鉄骨・木造住宅・増改築)
 専務取締役 小牧 英夫 [昭和56年卒]
 宇都宮市新町1-4 ☎028-634-2341

花と園芸
株藤野グリーンセンター
 代表取締役 藤野 善勝 [昭和35年卒]
 宇都宮市さつき2-3-5 ☎028-653-8660

新里建設
 取締役副社長 新里 治久 [昭和57年卒]
 宇都宮市下砥上町1544 ☎028-658-2345

平成16年度 創立119周年記念学院祭に参加して思う

事務局長 **鈴木 勲**
(商6回卒)

創立119周年記念学院祭が、平成16年9月25日(土)26日(日)の両日Fly highのテーマ・夢の翼に乗せてのサブタイトルのもと盛大に行なわれました。

今回の同窓会が学院祭ブース出展に対する役割は、来年創立120周年の節目の年に向けて同窓会と在校生とのふれあいを大きなテーマとして、毎年恒例になりました女子部のご協力による『バザー開催』と果物(梨)・菓子・漬物等の販売を文化厚生部が主体となり、多くの同窓生の協力を頂き同窓生全員学生に戻り在校生とのふれあいを一生懸命楽しみながら参加致しました。

今年度の学院祭は、作新学院高等学校長 船田昌子先生が「学院祭によせて」に掲載されている、自分の夢をもう一度考えなおしてほしい、大それた望みでも小さな希望でも願い続けることの喜びを思い出してほしいと。更に、自分ひとりでの力で実現出来なければ周囲の人々の協力があれば実現出来るのではないかとの優しい教を寄せております。我々同窓会もこれに対し、

同窓生の活動においても卒業生としても恥ずかしくない活動を行ない、「一校一家」の精神をもう一度思いおこし、知恵を絞って来年の創立120周年の行事に向けて頑張りたいと思います。

今回の学院祭に、2日間参加し母校の発展に寄与出来たことは大満足であり参加機会をいただき感謝致します。

同窓会17年度行事予定

同窓会における活動は、同窓生と学校の行事を通し学院発展への協力を図ることと、同窓生の深いつながりの機会を提供する事を主体として、下記の行事を行ないます。

同窓生の皆様の参加大歓迎であり多くのご参加をお待ちしております。

1. 新年会・成人祝賀会 (1月)
2. 常任幹事会 (5月)
3. 総会 (事業報告、決算報告、事業計画、予算発表)
4. 役員会 (7月)
5. 創立記念文化祭協力 (9月)
6. 研修旅行 (10月)
7. 同窓会会報発行
8. 常任幹事会 (11月)

平成16年11月開催「還暦同級会」

山田 勉
(高15回卒)

高等部3年7組・担任鈴木邦光先生。昭和38年3月卒業。以来「同級会」を毎年開いている。ここ15年は宿泊を兼ねての開催であり、今回は「還暦同級会」となった。

当時、硬派・軟派、多岐にわたる気質の若者達で、必ずしもまとまっていた組でもなかった。それが、顔を合わせれば早気持ちは18歳。タイムスリップして何でも話しが出来る。これが実に爽快で、気分が良い。精神を和らげると共に、懇親を深める場となっている。

3年生の時には、硬式野球部が全国大会で、春夏連覇の輝かしい記録を残した。応援はいつも全校生徒でグラウンドに行く。選手も懸命だろうが、応援する方

も大変だ。甲子園の時などは、2泊3日の予定で参加をしたが、“あれよ、あれよ”と勝ち進み、2週間も帰って来なかった者もいる。それが、春も夏もであった。

共通の話題から、世間話へ、身近な事へと発展して行くのが、この会の常である。

今後も、楽しく、いつまでも続けて行きたいと思っている。気持は、「青春18歳」。



元氣の里 (特別養護老人ホームケア・ハウス)

理事長 **角田 和之**
施設長 **角田 充由**〔平成5年卒〕
宇都宮市幕田町1456-1 ☎028-655-2611

御菓子司 枳金

<http://www.masukin.com/>

大 淵 皓 之〔昭和33年卒〕
宇都宮市平曲師町3-9 ☎028-633-2769

落合東光園 (造園・土木)

代表取締役 **落合 功**〔昭和37年卒〕
上三川町川中子921 ☎0285-56-3751

有限会社インテリアアール タカノ

高野 博子〔昭和26年卒〕
宇都宮市上戸祭3-3-2 ☎028-643-6231